R6 実務経験のある教員等による授業科目

学　部	経　営　学　部
学　科	経　営　学　科

Ｎｏ	科目区分	授業科目名称	単位	担当教員
1	基本教育	情報活用法Ⅰ	2	稲葉　健太郎
2	基本教育	キャリア設計	2	稲葉　健太郎
3	基本教育	キャリア開発	2	稲葉　健太郎
4	基本教育	キャリア研究	2	稲葉　健太郎
5	基本教育	地域と政策	2	横江　信一
6	基本教育	いしのまき学	2	遠藤　郁子
7	基本教育	復興ボランティア学	2	佐々木　万亀夫
8	専門教育	ビジネスと法	2	三森　敏正
9	専門教育	税法	2	岡野　知子
10	専門教育	税務会計論	2	岡野　知子
11	専門教育	国際経済論	2	丸岡　泰

単位数合計	**22**

科目名	情報活用法Ⅰ
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	水曜日 5時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
現在、コンピュータやインターネットは生活や仕事に欠かせないものとなっている。本講義では、これからの講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータの利用技法を学ぶ。具体的には、アプリケーションソフトを利用して、文書作成とプレゼンテーションを学ぶ。

＜DPとの関連＞
1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

＜到達目標＞
「アプリケーションを利用できる。コンピュータの仕組みを理解できる。これらを通じてコンピュータ社会に関わる諸問題解決のための基礎的素養を習得できる」ことを目標とする。

[授業の方法]
＜授業形態＞
　Microsoft WordおよびMicrosoft PowerPointの課題演習を行う。「講義・演習」形式である。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス、コンピュータの基本操作、インターネット利用上の注意について
（2）Microsoft Word：Wordの基本操作を理解しよう
（3）Microsoft Word：テキストデザインをしよう
（4）Microsoft Word：チラシデザインをしよう
（5）Microsoft Word：ポスターデザインをしよう
（6）Microsoft Word：段組みデザインをしよう
（7）Microsoft Word：ラベルデザインをしよう
（8）Microsoft PowerPoint：PowerPointについて
（9）Microsoft PowerPoint：スライドを作ろう
（10）Microsoft PowerPoint：スライドをデザインしよう
（11）Microsoft PowerPoint：スライドを実行しよう
（12）Microsoft PowerPoint：スライドの表現力を高めよう
（13）Microsoft PowerPoint：プレゼンテーション資料を作ろう
（14）最終評価（Wordのテスト30点＋PowerPointの課題レポート30点＋授業への貢献度40点）
（15）総まとめ

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
（2）～（13）が、実技を伴うアクティブラーニング（全12回）である。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
　14・15回目の授業で、テスト・課題の返却・解説を行う。

教科書／参考書

＜教科書＞
　定平誠、
　『例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版』、
　技術評論社、2019、定価（本体1,980円+税）
＜参考書＞
　特になし。

成績評価方法・基準

成績評価方法・基準 Microsoft Wordのテスト（30点）、Microsoft PowerPointの課題レポート（30点）、授業への貢献度（40点）にて総合評価する。出席者に発言を求めることもある。

履修上の留意点

＜準備学習＞
事前学習
　毎回の受講前にあらかじめ教科書を読んでおくこと。（150分）
事後学習
　課題を解くことによって自分の理解度をチェックできるので、遅れは次回までに取り戻しておくこと。毎回の授業の積み重ねが大切であるため、理解できないところや遅れ等をそのままにしないこと。（90分）
なお、Microsoft Excelについては、1年次前期の「情報活用法II」（必修科目）で学習する。

＜科目の位置づけと他科目との関連＞
　本講義は、諸君が高校までに学習したコンピュータスキルに積み上げる形で講義内容を設定したいと考えている。しかし、受講生の学習歴は異なるため、講義初回に状況を聴取し、必要なら個別に学習方法などをアドバイスし、自学してもらうこともある。コンピュータスキルは専門分野を問わず今後履修する科目で必要になることが多いので、1年次のうちに確実に習得すること。
　なお、この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの中にある「情報収集力と情報発信力」を達成するための科目である。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

（実務経験のある教員による授業）
民間企業での実務経験を活かし、情報処理及びコンピュータの利用技法の観点から講義を行う。

科目名	キャリア設計
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	水曜日 2時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　本科目の目標は、自己を知り、社会を知ることで、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることにある。具体的には、社会人・職業人として自立していくうえで必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学習をとおして自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を身に付ける。
　なお授業は、それぞれのテーマごとに課題解決的な演習や学内外から講師を招いての講義とするが、その学習内容に応じてアクティブラーニングやコミュニケーションスキルアップのための各種トレーニングを取り入れる。

＜DPとの関連＞
1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

[授業の方法]
＜授業形態＞
　パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式ですすめる。各クラスに分かれる場合は、グループワークや発表などの演習を行う。なお、外部講師からの講話の後は振り返りシートを書かせ、講義内容の定着を図る。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス：講義の約束・進め方及び講義内容を確認する。＜自己紹介カード＞
（2）自己理解へのトライ：自己の特性を知り、進路について考える。
（3）大学生活を知ろう：自己理解、高校生と大学生の違いを知る。
（4）大学生活の目標（座談会）:学部代表学生6名からそれぞれの目標を発表してもらう。＜振り返りシート1＞
（5）演習1：振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表し合う。
（6）演習2：ディスカッションを基に、大学生活の目標を設定し、レポートにまとめる。＜課題レポート1＞
（7）社会人に必要な力を知ろう：石巻専修大学OB・OG3名による座談会。＜振り返りシート2＞
（8）演習3：演習の手順についてパワーポイントを用いて説明した後、各クラスに分かれて演習を行う。
（9）演習4：社会人に必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。
（10）演習5：班ごとに発表し合い、社会人に必要な力をレポートにまとめる。＜課題レポート2＞
（11）キャリアをデザインしていくために必要な力：石巻地域で活躍している3名の鼎談。＜振り返りシート3＞
（12）振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表を行う。
（13）演習6：キャリアをデザインしていくために必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。
（14）演習7：各班でまとめたものを班ごとに発表し合う。
（15）キャリア設計の講義を振り返り、大学生活をデザインする。＜課題レポート3＞

※1　演習やアクティブラーニングを取り入れるため、サポート教員を配置する。
※2　サポート教員は、それぞれのクラスを掌握し、出欠確認やレポートの点検評価、演習等の助言に当たる。

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　講話等の振り返りでグループワークやグループ発表を適宜取り入れる。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　講義ごとに振り返りシートや課題レポートを書かせる。振り返りシートは演習の参考にするため、評価後にできるだけ早く返却する。また、ベストシートやベストレポートを適宜紹介する。

教科書／参考書

＜教 科 書＞：使用しない。
＜参考書等＞：講義ごとに資料を配布する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
平常の学習状況(20%)、振り返りシートや課題レポート(60%)、演習・発表内容(20%)等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習：単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料をもとに予習復習を行うこと。特に、レポート課題については、図書館やインターネットを活用し、自分の言葉でまとめるようにすること。（2時間）
　事後指導：授業終了後、その内容を振り返り、自分の考えをまとめる。（2時間）

＜科目の位置づけと他科目との関連＞
「キャリア設計」は、キャリア教育の土台になるので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の事業も併せて受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料のみならず、自分で調べた資料を整理してファイルしておくこと。

＜オフィスアワー＞

相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
オムニバス形式で多様な企業や本学OB・OG等を講師に招き、実務経験に沿った助言を行っている。

科目名	キャリア開発
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	金曜日 1時限
期　間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　社会人として豊かな職業人生を歩んでいくためには自己理解と社会・職業理解が必須である。また、大学生にとってキャリアとは就職活動のみを指すのではなく、人生そのものについて考え、実践していくものである。よって、在学中または卒業後に豊かなキャリアを歩んでいくために次の事項を中心に授業を構成する。
・自己のキャリアを体系的にデザインするためのキャリアに関する諸理論を学ぶ。
・就職活動における自己理解と業界・職業分析の必要性と方法を学ぶ。
・ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。
・具体的な卒業後のキャリアの事例について学ぶ。

　前半は主に講義を通してキャリアに関する諸理論や自己理解、業界・職業研究の方法について学ぶ。また、実際に企業が抱えている課題について解決を試みる実習も行う。後半にはゲストスピーカーを招き、企業の現場の話題を提供してもらうとともに、学生に対してどのように考えているのかについて講義をしてもらう。

＜DPとの関連＞
1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

＜到達目標＞
・自己分析と業界・職業研究をすることができるようになる。
・社会人に必要な基礎力とは何かを理解する。
・ゲストスピーカーの話を聞くことで企業の現場について知ることができる。

[授業の方法]
＜授業形態＞
講義形式で行う。授業は通年で15回とする。予定表に従って講義に参加してもらうことになる。講義は主に担当教員の他、外部講師やゲストスピーカーが担当することもある。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス
（2）キャリアとは何か・社会人基礎力について
（3）キャリアを考えるための発想法
（4）就職活動の両輪
（5）働き方を知る
（6）自己分析の実践
（7）課題解決能力を身につける①
（8）課題解決能力を身につける②
（9）課題解決能力を身につける③
（10）キャリアインタビュー①（ゲストスピーカー）
（11）キャリアインタビュー②（ゲストスピーカー）
（12）キャリアインタビュー③（ゲストスピーカー）
（13）キャリアをデザインする①
（14）キャリアをデザインする②
（15）まとめ

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
キャリア開発ではグループワークを取り入れている。他者との交流を通して自己理解を深める。また、インターンシップや就職活動、就業後の活動に向けた実践的なワークを実施する。ポスターやPowerPoint等を使用したプレゼンを行うこともある。

＜課題に対するフィードバック方法＞
講義の振り返り用のレポートを提出し、それについてフィードバックを行う。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
　教科書：講義で指定する。
　参考書等：講義で指定する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
試験は行わない。
（2）試験以外の評価方法
レポートによる評価を行う。
（3）成績の配分・評価基準など
平常の学習状況（20%）、事前学習・事後学習・レポート（80%）等により総合的に評価する。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習：授業で配布された参考資料をもとに予習復習を行い次の授業の準備をしておくことが望ましい。キャリアインタビューにおいては就職資料室やインターネットを活用し、業界や業種、職種等について知りたいことを調べ質問できるようにしておくことが望ましい。（2時間）

事後学習：自己分析や職業・業界研究を個人で進める。（2時間）

＜他科目との関連＞
1年次で学習した「キャリア設計」を踏まえ、3年次の「キャリア研究」つながるものである。キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと、また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の行事にも併せて参加、受講することが望ましい。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

＜オフィスアワー＞
相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
キャリア教育に関する外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育を行う。

科目名	キャリア研究
職名／担当教員	経営学部　准教授　稲葉　健太郎
曜日／時限	木曜日 4時限
期　間	通年
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
キャリア教育の仕上げ段階として、実践的なノウハウや実例を中心に各界の専門家によるオムニバス形式の授業である。
自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]:☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]:−
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]:−
④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]:−
[☆:関連するもの、−:関連しないもの]

＜到達目標＞
将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に着ける。

[授業の方法]
＜授業形態＞
進路ガイダンスへの参加及び企業が行う就業体験への参加を以て授業とする。

＜授業計画＞
【対面科目】
（1）就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法
（2）履歴書・エントリーシート作成講座
（3）自己分析講座
（4）業界・企業・職種研究のノウハウ
（5）社会や会社の常識
（6）社会人に必要なビジネスマナー
（7）好印象を与える身だしなみ、リクルートファッション
（8）一般試験（SPI）対策講座
（9）面接対策講座①　採用面接を受ける心構え
（10）面接対策講座②　グループディスカッションに備えて
（11）企業の採用担当経験者による「来て欲しい人物像」
（12）本学卒業生による業界、職種の事例紹介
（13）就業体験の解説
（14）就業体験
（15）就業体験発表会
上記の授業計画は講師の都合等で順序が前後することがある。また、この他にも授業の一環として就業体験の①受入先との調整、②申込み書類の添削指導、③必要に応じ事前研修、④発表会の準備を行うことがある。

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
就業体験として企業や地方自治体等の組織で各種の体験を積んでもらう。

＜課題に対するフィードバックの方法＞
毎回交替で別な講師が講義するため、各講義における質問等は講義修了後に担当講師が受け付ける。　全体的なスケジュールやテーマの選択に関しては担当教員（就職指導部長）に相談してほしい。

教科書／参考書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書として、一般的な就職支援書籍（SPI攻略本や社会人マナー）の中から気に入ったものを持っていると就職活動の助けになる。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
・講座形式での平常の学習状況
・受講後のレポート
・就業体験の内容
・就業体験発表会でのプレゼン内容
により総合的に評価する。
ただし、就業体験に参加を希望したものの実施先企業等の都合で実現できなかった場合には救済措置を考慮する。

履修上の留意点

＜準備学習＞
・講座形式の際は特に準備を要しないが、高い意識で望むこと。
・就業体験の際は事前に就業先について十分に研究して望むこと。
＜事後学習＞
・講座を受講後にレポートを提出いただく。内容は毎回指示する。
・就業体験では修了後にプレゼン資料を作り発表いただく。
＜科目の位置づけと他科目との関連＞
・キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。
・自分の適性や将来の目標について考える機会であるので、何事も主体的に取り組むことが望まれる。このため、これまで学習した「キャリア設計」・「キャリア開発」の内容を復習しておくことが望ましい。
＜就業体験＞
・就業体験に参加する場合には、しっかりと事前準備し望むこと。

・就業派遣先での無断欠席や遅刻など迷惑となる行為は厳禁。
・就業派遣先や日程の決定は、個別に指導、調整する。
・学外での行動は安全に最大限の注意を払うこと。

担当教員へのアクセス

3111研究室（3号館1階　稲葉健太郎）

その他

＜オフィスアワー＞
　相談は随時受け付けます。

（実務経験のある教員による授業）
就業体験の事前事後指導に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育と就業体験を行う。

科目名	いしのまき学
職名／担当教員	人間学部　教授　遠藤　郁子 ／ 人間学部　特任教授　横江　信一
曜日／時限	水曜日 2時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　皆さんが大学生活を送る石巻市は「SDGs未来都市」に選定され、2030年までに持続可能な地域社会を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。この授業では、石巻市とその圏域について知り、ともによりよい地域社会を実現してゆくための課題を発見し、その一員としてできることは何かを思考し、主体的な行動につなげていくための学びの基盤を身につける。
　オムニバス形式で実務経験のある複数の外部講師などを招き、石巻圏域の歴史・文化・社会について、さまざまな角度から地域を理解するとともに、学生生活を通じて地域に貢献しながら地域の中で学ぶ方法を実践的に学ぶ。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：☆
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
(1)石巻圏の歴史・文化・社会についての基礎知識を身に付け、地域社会の課題について多面的に思考できる。
(2)大学の学びの中で有効に情報ツールを活用し、適切に情報収集・整理・発信することができる。

［授業の方法］
＜授業形態＞
　配布プリントやPowerPointなどを用いて、オムニバス講義形式で授業をすすめる。

＜講義計画＞
【対面科目】
1(4/10)　ガイダンスー「分からない」と向き合う
2(4/17)　「誇れる石巻を目指して～石巻に住んで良かったと思えるまちづくり～」　齋藤正美（石巻市長）
3(4/24)　東日本大震災からの大学の取組と地域社会連携　尾形孝輔（石巻専修大学事務課）
4(5/08)　東日本大震災の記憶と教訓の伝承　白須　肇（宮城県復興支援・伝承課）
5(5/15)　石巻と地域メディア　山口紘史（石巻日日新聞社）
6(5/22)　石巻の自然環境　平井和也（石巻・川のビジターセンター）
7(5/29)　石巻の歴史　横江信一（石巻専修大学人間学部）
8(6/05)　石巻市博物館ミュージアム・トーク　佐藤麻南（石巻市博物館）
9(6/12)　石巻で働く　斉藤誠太郎（まちと人と）
10(6/19)　石巻を遊ぶ―川開き祭について　毛利広幸(石巻商工会議所）
11(6/26)　石巻の街づくり　木村仁（街づくりまんぼう）
12(7/03)　石巻の行政　未定（石巻市政策企画課）
13(7/10)　面白がる力が人生を豊かにする　千葉均（ポプラ社）
14(7/17)　SDGs未来都市いしのまきの実現に向けて　阿部雄大（石巻市SDGs移住定住推進課）
15(7/24)　総括－石巻というフィールドでわたしたちができること

※　第2回（4/17）と第8回（6/5）は、「マルホンまきあーとテラス（石巻市複合文化施設）」訪問を予定しています。

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
・グループワークを行う。　・リアクションペーパーを使用する。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　毎時間の課題や学生からのコメントに対するフィードバックは、講義内やInCampusなどで適宜行う。

教科書／参考書

＜教科書＞なし
＜参考文献＞講義内やInCampusを通じて適宜紹介する。

成績評価方法・基準

（1）評価方法
＜成績評価方法・基準＞
(1)試験・テストについて
　試験は実施しない。
(2)試験以外の評価方法
　期末の課題レポート、および各回後に実施するリアクションペーパー・指定課題への取組を求める。
(3)成績の配分・評価基準等
　リアクションペーパー・指定課題（60%）、期末の課題レポート（40%）により総合的に評価する。講義の内容を理解し、的確にまとめ、与えられたテーマについて論じることができているかを基準とする。　平常点で評価。

履修上の留意点

事前学習：それぞれの講義テーマについての事前調査を行う。指定課題に取り組む。（120分）
事後学習：講義内容について復習し、講義テーマに関する指定課題に取り組む。（120分）

担当教員へのアクセス

遠藤研究室：3号館2階　3216研究室
メールアドレス：endo@isenshu-u.ac.jp

横江研究室：3号館2階　3221研究室

メールアドレス: yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

〈オフィスアワー（遠藤）〉
時間帯：金曜日　13：00～15：00
場所：遠藤研究室（3号館2階　3216研究室）

〈オフィスアワー（横江）〉
時間帯：金曜日　13：00～15：00
場所：横江研究室（3号館2階　3221研究室）

科目名	復興ボランティア学
職名／担当教員	経営学部　教授　佐々木　万亀夫
曜日／時限	水曜日 5時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　東日本大震災後に数多くの災害ボランティアが多くの被災地で活躍しました．最も多数の被害者を出した地方自治体であります石巻市においても、全国から多くの個人・団体（NPO、NGOなど）の災害ボランティアが集まって来ました。石巻専修大学には、石巻市社会福祉協議会が中心である石巻市災害ボランティアセンターが設置され、災害ボランティアが活躍できる基盤および拠点が構築されました。さらに、自立して活動できるNPO・NGOは石巻災害復興支援協議会（現在の公益社団法人3.11みらいサポート）を設立し、石巻市災害ボランティアセンターを経由せず、自分たちでニーズを見つけて復旧活動に取り組みました。
　本授業では、大震災後から現在まで時間とともに変化していく石巻地域の課題に向き合ってきた団体等のリーダーや本学の教員を講師として、大震災後の復興の状況を学びます。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識 [知識・理解]: ☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力 [汎用的技能]: ー
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢 [態度・志向性]: ー
④創造的思考力と研究遂行能力 [統合的な学習経験と創造的思考力]: ー
　〔☆：関連するもの、ー：関連しないもの〕

＜到達目標＞
・石巻地域で活躍している復興に携わる団体の実態の理解
・小さなことでも良いから、自分から進んで復興に貢献すること

[授業の方法]
＜授業形態＞
Power Pointと配布資料を用いて「講義・演習形式」で進めます。

＜授業計画＞
【対面科目】
　尚、講師の都合により、授業の内容や順番などが変更されることがあります。
【第1部　被災から復旧へ】
（1）授業概要、NPOとボランティアについて（佐々木）
（2）東日本大震災の概要（いしのまきNPOセンター理事　四倉禎一郎）
（3）東日本大震災時の大学の役割1（避難所としての機能）（佐々木）
（4）東日本大震災時の大学の役割2（復旧活動拠点としての機能）（佐々木）
（5）災害とボランティア（一般社団法人BIG UP石巻代表　阿部由紀）
（6）震災後のボランティアとNPO活動について（いしのまきNPOセンター代表理事　木村美保子）
（7）ボランティア活動における中間支援の役割（いしのまきNPOセンター副代表理事　木村正樹）
（8）課題演習1
【第2部　復旧から復興へ】
（9）がんばろう石巻の看板の活動を通して思うこと（いしのまきNPOセンター副代表理事　黒澤健一）
（10）東日本大震災直後のボランティアとNPOの協働（3.11メモリアルネットワーク専務理事　中川政治）
（11）震災を契機とした子ども、子育て当事者による取り組み
　　（いしのまき子どもセンターコンソーシアム　代表　荒木裕美、吉川恭平）
（12）どんな境遇の子どもにも向き合い続ける学生ボランティア活動（（TEDIC 坂西明弥佳）
（13）（仮）震災後のコミュニティづくりと未来に向けた協働
　　（石巻じちれん事務局長/いしのまき会議共同代表理事　田上琢磨）
（14）子どもの居場所作り、遊び場作り活動における大学生ボランティアの役割
　　（にじいろクレヨン理事長　柴田滋紀）
（15）まとめ、課題演習2

＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞
理解度の確認のため、授業の終わりに毎回小テストを行います。また、2回課題演習を行います。

＜課題に対するフィードバック方法＞
必要に応じて、小テストや講義演習の際にコメントや説明をします。なお、課題演習は講義の復習を兼ねています。

教科書／参考書

＜教科書＞
特に指定はありません。プリントを配布します。

＜参考書＞
特に指定はありません。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
小テスト（50%）、課題演習（50%）にて総合評価します。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：日頃からボランティアやNPOに関する新聞記事や雑誌等を見て、授業に関する教養を深めること。（90分）
事後学習：配布するプリントを十分に復習すること。（150分）

＜他科目との関連＞
いしのまき学、ボランティア論などの理解を深めるのに役立つ科目です。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館1階3120研究室
メールアドレス：msasaki@isenshu-u.ac.jp

その他

＜オフィスアワー＞
講義内容に関する質問は 3120研究室で随時受け付けます。

＜実務経験のある教員による授業＞
外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	地域と政策
職名／担当教員	人間学部　特任教授　横江　信一
曜日／時限	火曜日 5時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつ様々な資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）の首長をはじめ自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観したうえで、まちづくりに当たって必要とされる地域住民と自治体の連携について理解する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識〔知識・理解〕：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力〔汎用的技能〕：－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢〔態度・志向性〕：－
④創造的思考力と研究遂行能力〔統合的な学習経験と創造的思考力〕：☆
　〔☆：関連するもの、－：関連しないもの〕

＜到達目標＞
　テーマ：地域政策の現状把握と課題追究からまちづくりを展望する。
　到達目標：行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方につい理解することができる。

［授業の方法］
＜授業の形態＞
　配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話（45分程度）を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。

＜授業計画＞
【対面科目】
(1) 講義の概要説明
(2) 地域政策と地方自治、議会と選挙管理委員会の役割
(3) 地域の現状と政策
(4) 石巻市の施政方針について（石巻市）
(5) 地域防災の取組について（石巻市）
(6) 石巻市の産業観光政策について（石巻市）
(7) 石巻市の地域政策のまとめ
(8) 東松島市の施政方針（東松島市）
(9) 東松島市のコミュニティ・スクール事業について（東松島市）
(10) 産業観光政策の事例（東松島市）
(11) 東松島市の地域政策のまとめ
(12) 女川町の施政方針（女川町）
(13) 産業観光政策の事例（女川町）
(14) 安全・安心なまちづくりについて（女川町）
(15) 女川町の地域政策のまとめ

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
　グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。

＜課題に対するフィードバック方法＞
　基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート（振り返りシート）にまとめ、回収する。小レポート（振り返りシート）の回収後コメントを記入して返却する。

教科書／参考書

＜教　科　書＞：使用しない。
＜参考書等＞：授業で紹介する。

成績評価方法・基準

＜評価方法＞
（1）試験・テストについて
　　試験は実施しない。
（2）試験以外の評価方法
　　授業中に小レポート（振り返りシート）を作成する。（全12回）
　　課題レポートを時間内に行う。（1回）
（3）成績の配分・評価基準等
　成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度（60%）、授業中の小レポート（10%）と最終課題レポート（30%）であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した（する）学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
　事前学習： 石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場（各部・各課）の仕事の内容をホームページで調べておくこと。（120分）
　事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。（120分）

＜他科目との関連＞
　地域の行政施策を理解する上でいしのまき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。

担当教員へのアクセス

研究室：3号館2階3221
メールアドレス：yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他

授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。

＜オフィスアワー＞相談は随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）
圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。

科目名	ビジネスと法
職名／担当教員	経営学部　教授　三森　敏正
曜日／時限	木曜日 1時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜到達目標＞
　現代経済社会における主要な経済活動の担い手は、株式会社を中心とした会社である。会社法は2006年に旧商法第2編を独立させて単行法化したものである。その内容は、会社の設立・存立中、消滅にいたる各段階について、会社の出資者である社員（株主）、会社機関、および会社債権者等の利害関係人の法律関係を規制している。本講義では、この会社法についての基礎を理解してもらうことを目的とする。

＜講義計画＞
【対面科目】
（1）ガイダンス・会社の種類・使用人等
（2）株式会社の設立
（3）株式会社への出資・会社の不成立
（4）株式の概念・株式譲渡
（5）担保・株式の併合・分割
（6）特別な株式・種類株式
（7）株式会社の機関総論
（8）株主総会
（9）取締役・取締役会
（10）取締役の責任・監査役
（11）会計監査人・会社訴訟
（12）募集株式・新株予約権・社債
（13）計算書類
（14）会社再編・解散等
（15）まとめ

＜授業の方法＞
板書と視聴覚メディアを活用しながら講義形式で進める＞

＜課題に対するフィードバックの方法＞

Rシートに記載された事項について、次回講義時に対処する

教科書／参考書

松岡弘樹編三森敏正他著『会社法の基礎』八千代出版
　　『デイリー六法2024度版』三省堂

参考書：『会社法判例百選』第4版有斐閣

成績評価方法・基準

（1）成績評価方法

　原則として期末に実施する単位認定試験によって評価する。

（2）成績評価基準・評価の配分等

　試験（95％）、授業における積極的参加、Rシートへの質問等（5％）

履修上の留意点

＜準備学習＞
予習では教科書を読んでおき、不明な法律用語等について図書館等で調べる（2時間）。
　復習では授業で指摘した判例を図書館のデーターベース等を使い確認する（2時間）。

＜科目の位置づけと他科目との関連＞
商法・会社法は民法（財産法）の特別法であるので、法と社会の履修が望ましい

会社法は非常に条文も多く、会社法施行規則等も参照しなければ十分な理解をすることができないので、授業の際には必ず六法を持参すること。

担当教員へのアクセス

原則としてメールによる。
メールアドレス：mitusmori@isenshu-u.ac.jp。

その他

毎回の授業の最後に理解をより深めるため、独自のRシートを記入してもらう。

※他の学生の授業を受ける権利を確保するため、私語などには厳しく対処する。

オフィスアワーは木曜日昼休み

（実務経験のある教員による授業）
企業での実務経験における法知識を活用した講義を行う。

科目名	税法
職名／担当教員	経営学部　教授　岡野　知子
曜日／時限	水曜日 2時限
期　間	後期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
本講義では、租税法の沿革を踏まえ基本的な租税法の体系および基本理念について学習する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］:－
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］:－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］:☆
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］:－
［☆:関連するもの、－:関連しないもの］

＜到達目標＞
１. 学生は、税に関する基本事項（意義、基本原則、租税法律主義、体系等）を修得する。
２. 学生は、主要な税目（所得税、消費税、相続税）の仕組みを学び社会における税の重要性を知る。
３. 学生は、租税判例を用いながら生きた税の姿を学ぶ。

［授業の方法］
＜授業形態＞
板書および視聴覚メディアを活用しながら、ディスカッションを取り入れ講義形式ですすめる。

＜授業計画＞
1. ガイダンスと戦前の租税制度の沿革
2　戦後の租税制度の沿革
3.「税」の意義
4. 租税の基本原則と税の機能
5. 租税の種類
6. 租税法律主義
7. 租税公平主義
8. 所得税の基本的仕組み
9. 所得税の納税 :
10.消費税の基本的仕組み
11.消費税の納税義務者
12.相続税の基本的仕組み
13.相続税の納税義務者
14 .国際課税
15.授業内テストおよび総括

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
各回の授業のはじめに、事前学習での疑問点をグループでディスカッションし、グループごとに発表を行い問題点を解決していく。

＜課題に対するフィードバック方法＞
事後学習のレポート等を回収し、返却後解説をおこなう。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
1. 川田　剛著 『十九訂版　租税法入門』 大蔵財務協会　ISBN978-4-7547-3000-0
その他必要に応じ参考文献等を提示する。

成績評価方法・基準

(1)試験・テストについて
前期試験を15回目の講義内においておこなう。
(2)試験以外の評価方法
レポートの提出状況、提出内容
(3)成績の配分・評価基準等
授業内テスト（80%）　レポート（20%）を総合的に判断し評価する。

履修上の留意点

＜事前学習＞
各回の授業内容について教科書を熟読し、疑問点等を各自小レポートにまとめて授業に参加すること。（事前授業60分）
＜事後学習＞
事前学習で解決したこと等を各自小レポートにまとめ、次回の授業で提出すること。（事後学習90分）
＜他科目との関連＞
法人税法についての詳細な授業は、税務会計論の授業において学習するので是非本講義とあわせて履修してほしい。

担当教員へのアクセス

研究室: 3号館2階3209
e-mail: tokano@isenshu-u.ac.jp
オフィスアワー：10：30～11：00、昼休み

その他

インターネット、ニュース、新聞によって税制の動向に関心をもってほしい。

（実務経験のある教員による授業）
税理士の実務経験を活かし、税務の観点から講義を行う。

科目名	税務会計論
職名／担当教員	経営学部　教授　岡野　知子
曜日／時限	火曜日 2時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
税務会計とは、法人税の課税ベースとなる課税所得の計算、課税価格の適正なる評価を使命とする租税目的のための会計である。本講義においては、税務会計の中心的領域をなす「法人所得税務会　計」を中心として、その体系、計算技術を企業会計上の損益計算をベースに税務会計上の所得計算とその理論を修得する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：－
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：－
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：☆
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
学生は、税を会計学的アプローチから学ぶことにより、企業経営上における法人税の役割と重要性を理解することができる。

［授業の方法］
＜授業形態＞
板書および視聴覚メディアを活用しながら、ディスカッションを取り入れながら講義形式ですすめる。

＜授業計画＞
対面科目
(1)　ガイダンス・税務会計論の学習領域について
(2)　課税所得の計算構造
(3)　確定決算主義および益金と損金
(4)　収益の計上基準
(5)　受取配当等
(6)　有価証券の譲渡損益および評価損益
(7)　売上原価および棚卸資産の評価
(8)　固定資産の減価償却および特別償却
(9)　給与等
(10) 寄附金
(11) 交際費等
(12) 引当金
(13) 貸倒損失
(14) 課税所得・税額の計算
(15) 試験および総括

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
事前学習での疑問点を発表し、ディスカッションを講義中取り入れていく。

＜課題に対するフィードバック方法＞
理解度確認テストおよび事後学習のレポート等を回収し、返却後解説をおこなう。

教科書／参考書

＜教科書・参考書等＞
教科書：坂本雅士編著 『現代税務会計論』 中央経済社

成績評価方法・基準

＜1＞　評価方法
（1）　試験について
前期試験を行う
（2）　試験以外の評価方法
試験以外の評価方法としては、レポート（2回）および授業貢献度で評価する。
（3）　成績の配分・評価基準等
試験（70%）　レポート（20%）　授業貢献度（10%）を基準として総合的に判断し評価する。

試験については、授業で得た知識をもとに、与えられたテーマについて論じる能力をみる。

履修上の留意点

＜事前学習・事後学習＞
事前学習：各回の講義内容を熟読し、疑問点等を小レポートにまとめて授業に参加しすること。（60分）
事後学習：事前学習で解決したこと等を各自まとめ、小レポートにして次回の授業で提出すること。（90分）

＜他科目との関連＞
税務会計論においては法人税を中心に学習をすすめていくので、併せて他の税法を修得するよう税法を履修することが望ましい。将来税理士試験を受験希望する者、銀行、公務員、一般企業等を就職希望する者は受講を勧める。

担当教員へのアクセス

研究室: 3号館2階3209

e-mail: tokano@isenshu-u.ac.jp
オフィスアワー：10：30～11：00、昼休み

その他

ニュース、新聞によって税制の動向に関心をもってほしい。

（実務経験のある教員による授業）
税理士の実務経験を活かし、税務の観点から講義を行う。

科目名	国際経済論
職名／担当教員	経営学部　教授　丸岡　泰
曜日／時限	金曜日 1時限
期　間	前期
開講区分／校舎	石巻学部／石巻
単　位	2

講義内容

＜授業概要＞
　本年度、この授業は前期に開講される。
　本授業は、まず、国際収支表の仕組みや国際貿易の基本理論を紹介する。貿易収支または経常収支の黒字や赤字の意味、輸出入はなぜ起きるのか、かつて日本の主要輸出産品だった繊維製品が今日輸入されるのはなぜか、比較優位とは何か、関税の影響はどんなものか、保護主義は正当化できるか、等の問題に答えるための議論を紹介する。さらに、戦後のGATT体制の意義やWTO体制の成立、日米貿易摩擦などの現象をより良く理解するための考え方を説明する。

＜DPとの関連＞
①幅広い教養と専門的知識［知識・理解］：☆
②情報収集力と情報発信力および専門的能力［汎用的技能］：☆
③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢［態度・志向性］：☆
④創造的思考力と研究遂行能力［統合的な学習経験と創造的思考力］：－
［☆：関連するもの、－：関連しないもの］

＜到達目標＞
　具体的到達目標は、以下を理解することである。(1)日本に住む人々の生活の他国に住む人々の生活との密接な関連、(2)国際収支表の基本的な収支の意味、(3)比較優位という考え方、(4)関税政策と保護主義の帰結。

＜講義計画＞
(1) ガイダンス及び国際貿易についての一般的解説
(2) 国際収支表の仕組み
(3) 絶対優位と比較優位
(4) リカードの比較優位説
(5) 新古典派の貿易論の諸前提
(6) 新古典派の貿易論の供給面
(7) 新古典派の貿易論の需要面
(8) 新古典派の貿易論のまとめ
(9) 輸入関税の理論―部分均衡分析―
(10) 輸入関税の理論―一般均衡分析―
(11) 輸入関税の理論のまとめ
(12) 幼稚産業保護論
(13) プロダクト・サイクル説
(14) 戦後貿易体制の歴史
(15) 最終評価（筆記テスト40～50分＋まとめの授業50～40分）

＜アクティブラーニング取り入れ状況＞
授業中、図や解説の理解について質問し、学生に挙手させ、理解度を把握する。

＜授業形態＞　講義

＜課題に対するフィードバック方法＞　授業中解説

＜ICTを活用した自主学習支援＞
　in Campusを使用し、レポート等の課題を課す。また、授業内で提示した問題に対しての回答も配布する。各自で理解度が低いところの確認・復習をしておくこと。

教科書／参考書

＜教科書＞　特になし
＜参考書等＞
　浦田秀次郎[2009]『国際経済学入門（第2版）』日本経済新聞社（1,050円）
　伊藤元重[2005]『ゼミナール国際経済入門（改訂第3版）』日本経済新聞社（3,200円）

成績評価方法・基準

(1)試験・テストについて
　成績評価方法・基準
(2)試験以外の評価方法
　小テスト・レポート。回数は授業の進展と学生の理解度により決める。
(3)成績の配分・評価基準等
　小テスト・レポート：50％。試験：50％。

履修上の留意点

＜事前学習：120分＞
　新聞の国際収支表の記事、貿易に関する記事を注意して読むこと。時間に余裕があれば、上記2冊の参考書に目を通すことが望ましい。
＜事後学習：120分＞
　ノートをよく見て、講義内容をよく頭に入れること。
＜科目の位置づけと他科目との関連＞
　国際経済論は経済学のミクロ経済学を基礎とする授業であり、本学では経済学入門を履修していることを前提に講義を進める。このほかに、さらに理解を深めるために、機会があればマクロ経済学の基本的な教科書を読んでおくことが望ましい。

担当教員へのアクセス

　In Campusのメッセージ機能を使用すること。

その他

＜オフィスアワー＞　講義内容に関する質問は研究室で随時受け付ける。

（実務経験のある教員による授業）
行政での実務経験を活かし、国際協力の観点から講義を行う。